

コロナ禍の流行と75年の不易

福井県小学校長会

会長 田中 範 継



令和5年5月8日、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の扱いが2類から5類に移行しました。これにより、これまで縮小・削減を余儀なくされていた学校の諸活動が、息を吹き返したように復活しています。その内容は、コロナ禍前の形にそのまま戻るのではなく、社会の変化、新しい時代に即したものと進化しています。そこには、コロナ禍の中で身に付けた力が生かされると同時に、本来、学校教育で培うはずであった「低学年の個から集団への移行」「中学年のギャングエイジでの学び」「高学年のリーダーシップの発揮」など、失われたものを取り戻す事も大切な指導の視点となっています。さらに、コロナ禍を機に変化した私たち教職員の働き方改革も影響し、マスクがなくても、元に戻らないものもあります。

令和5年度の教育界の課題の1つに「教員不足」が挙げられます。これは全国的な危機的問題であり、児童の学力や生活面の課題より先にあげなければならないような深刻な状況です。学校現場がまわらなくなつて、ようやくその対策を講じ始めましたが、まだしばらくは辛抱が続きます。効果が早く現れることを期待します。

昭和24年に誕生した福井県小学校長会、全国連合小学校長会は今年75周年を迎えました。当時の人々は学校に対し楽観的な信頼を寄せていたかもしれませんが、時代と共に教育的課題が浮き彫りにされ、学校教育に対して不信感さえつづやかれるようになってきました。最近では教育界のイメージそのものも良く言われないことがあります。しかし、私たちは知っています。児童と共に生きる幸せ、教えることの充実感、教員の魅力を身にしみて感じています。この思いを胸に、誇りと自信をもってこれからも職務に携わっていきたくと切に思います。

そこで、この時代を生きる私たち自らに、次のような

エールを送ります。これは、日本の教育が、いかに優れているかを表した外国の研究報告です。

○子どものよい点をみんなで認めている。

○「やる気」を起こさせることを常に重視している。

○読み書きと算数以外にも、バランスのとれたカリキュラムで教育している。

○善悪、正邪、徳などの正しい意味を教え、正しい習慣を身に付けさせようとしている。

○規律、秩序、目的のはっきりした学習環境を整えている。

○やる気に満ちた有能で献身的な教師が、よい学校を創り上げようとしている。

これらの指摘は概ね納得できます。これらは、私たち小学校長がずっと続けてきた教育実践であり、言わば小学校長会の不易です。これがあるからこそ、厳しい社会情勢の中でも小学校に寄せる保護者の信頼感は大きいのです。

小学校長会75年の歴史の中で小学校教育は大きく変化してきました。昭和の終わりに最先端だった箱型テレビ放送の授業はいつでもどこでも見られる動画になり、大きく拡大して見せることのできるOHPは学校から姿を消しました。ここ3年で、児童は全員タブレットを持つようになり、授業の進め方は日に日に進化しています。さらに、これから25年先の小学校教育はどうなるのか想像するだけでもわくわくします。しかし、どんな流行の中でも小学校教育の不易は存続し、私たち校長は真摯に心を寄せ続けるのだと思います。そうして、今日の日本を支えている人々を世に送り出していくのです。

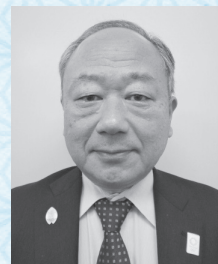
最後になりましたが、「會報」の発行に際しご協力いただいた関係各位、並びに編集広報委員の皆様にご感謝申し上げます。ありがとうございました。

第75回福井県小学校長教育研究奥越大会

教育長挨拶概要

福井県教育委員会

教育長 豊北 欽一



第75回という歴史ある小学校長学校教育研究大会がここ勝山市で開催されますこと、心からお祝い申し上げます。日頃、小学校の校長先生方には、本県の教育力向上にご尽力されておりますことに感謝申し上げます。

【慶応高校にみる指導者像】

夏の甲子園の優勝を飾った慶応高校の森林貴彦監督は、「理想はノーサイン」という考えのもと、「個」の力を引き出す、自ら状況判断できる選手を育成してきました。選手は森林監督を「森林さん」と呼び、練習中に必要のない大声は出さず、グラウンド整備は全員です。長時間の練習はなく、髪型の丸刈りも求めない。「こうあるべきだ」という足かせを取り払い、自主性を重んじ、より高いレベルで野球を楽しむスタイル、そこには慶応伝統の「エンジョイベースボール」があったということです。全国のスポーツの強豪校は、選手自らが考え、自主性を尊重するといえます。これからのスポーツ指導の参考にしたいものです。

【ブラジル入植60周年記念式典】

私は8月にブラジルのコロニア・ピニャール（通称：福井村）の入植60周年記念式典に出席してきました。本県のブラジルへの集団移住については、1962年に3家族、14名の方が入植し、「村づくり」の理想と信念のもと、様々な困難を乗り越えながら今日の安住の地を築かれました。現在は55世帯、約220人の移住家族が暮らしています。また、1980年よりブラジルから約200名の技術研修員の受け入れを行っており、県民との交流を深め、帰国後は両国の架け橋となっただけです。その移民の歴史を聞いてみたい小学校があれば、ブラジル福井村で日本語学校の教師をしたこともある県庁の産業労働部の谷口あい子さんに依頼して児童に話をしてもらうことをお勧めします。

【プレゼン大会】

8月に全国高校生プレゼン甲子園がハピリンホールで開催され、全国616チームからブロック予選を勝ち抜いた10チームが参加し、その様子がYouTubeで観られるようになってきました。今年も小学生の大会が行われますが、審査員による質問に対する応答が勝ち負けに大きく影響すると思います。昨年の大会終了後に審査委員長の前田鎌利さんと話をしていて、質疑応答のレベルを上げる必要があるとの指摘を受けました。決勝大会に参加するチームは、高校生の動画を見て参考にしてほしいと思います。

【次世代系人材育成】

全国の大学で今、理工系分野の志願者を女性に限定した「女子枠」を設ける動きが広がってきています。高

校1、2年生の女子生徒を対象に、この夏休みに最先端のIT技術を学び、本物のオフィスの雰囲気を感じ取り、アプリ開発などのデジタルスキルを身に付ける「未来のテックリーダープロジェクト首都圏研修」を実施したところ、たくさんの応募をいただきました。小学校においても科学の楽しさを体感できるサイエンスショーや、算数の発想、ひらめき、見方・考え方を豊かにする謎とき教室を開催しますので、多くの児童の参加をお願いします。

【引き出す・楽しむ教育】

今年度は、湘南学園長の住田昌治氏、国立教育政策研究所の白水始氏、京都大学大学院教育学研究科の石井英真氏をお招きし、学校訪問と講演会を実施します。多くの校長先生方にご参加いただきたいと思います。また、「県P連が、今年12月2日の講演会で西郷孝彦氏をお呼びする」と聞いていますので、PTA会長と一緒に校長先生も参加すると思います。

【住田昌治氏の著書】

住田昌治氏が、「校長先生、幸せですか？」という著書を発行しました。校長の仕事はハッピー・クリエイター。教職員、子ども、保護者、地域、学校に関わっている人すべてをハッピーにと思い続けていると、きっと素晴らしい学校になると住田氏は言っています。そして、進化する校長として、3つのポイントをあげています。この本には、住田氏が受けた質疑への応答集も掲載されており、参考になると思いますので読んでみてください。また、杉並区和田中学校の校長だった藤原和博氏の著書「学校がウソくさい」は、新時代の教育改造ルールについて書かれていて面白かったのでぜひ読んでみてください。

【次期県教育振興基本計画】

福井県教育振興基本計画の改訂作業を進めるに当たり、皆さんから学校現場からみた現行施策の現状や課題、新たに盛り込むべき施策の提案をお聞きしたいと思います。改善すべき点、新たにに取り組むべき点を積極的に提案してほしいと思います。

各校長先生にお願いしたいことは、学調や体力テスト、いじめ、不登校、教員の超過勤務の状況など、自分の学校がどういった状況か分析しながら改善に向け目標を設定して学校全体で取り組むことが重要であり、校長のリーダーシップ、マネジメント力、ファシリテーション力を発揮して、ハッピー・クリエイターであってほしいと思います。本研究大会が実りある大会となりますよう、併せて皆様の益々のご健勝、ご活躍をご祈念申し上げます、私の祝辞とします。

時流潮流

紫式部がくらした武生（越前国府）

紫式部と国府資料館

紫ゆかりの館館長 三田村 悦子



1 武生にきた紫式部

紫式部(973～1020 *生没年は諸説あり)は父親、^{ふじわらのためとき}藤原為時(漢学者、下級貴族)や兄弟とともに長徳2年(996年)に京より下向し、武生で1年余り暮らししました。当時、武生は越の国(越前、越中、越後)の中の、^{えちぜんのくに}越前国。その国府があり、為時が越前守(国司)に任命されたのです。

「ここにかく 日野の杉むら 埋む雪

小塩の松に 今日やまがへる」

「ふるさとに かへるの山の それならば

心やゆくと ゆきも見てまし」

『紫式部日記 紫式部集』新潮日本古典集成35

(山本利達校注 新潮社刊より)

この2首が武生で詠んだ紫式部の歌として有名であり、この歌から紫式部は雪の多い越前での暮らしが嫌で仕方がなく、早く都へ帰りたいと思っていたという捉え方が一般的でした。私も紫式部の金色の銅像が立ち紫式部公園が整備された頃(昭和61年)からそう思っていました。

しかし「紫ゆかりの館」の館長となり「紫式部集」などを読むことでその考えは間違いだと気付きました。

短い間ですが、美しい四季を感じられる自然の中で、豊かな山の幸、海の幸を味わい、求婚してくれていた^{ふじわらののぶたか}藤原宣孝のことを考えながら充実した日々を送っていたのではないかということです。嫌がっていた雪も初雪が降る様、細雪、牡丹雪、粉雪など色々な雪が舞う様、そして雪が溶けていく様などが心に深く心象風景として残っていたと思います

帰京途上に詠んだと言われている歌

「名に高き 越の白山 ゆきなれて

伊吹の嶽を なにとこそ見ね」

(前掲『紫式部日記 紫式部集』より)

にも、白山の見える武生で過ごしてきたことを自慢しているような紫式部の心情が伺えます。

京へ戻って、宣孝と結婚し、娘賢子(後の大式三位)を産み、藤原道長の娘中宮彰子に仕えるため宮中に上がり、源氏物語を書き始めたといわれていますが、武生でも構想を練っていたのかもしれません。

2024年のNHK大河ドラマ「光る君へ」の主人公が「紫式部」と決まってから越前市はプロジェクトをつくり、紫式部がただ一度都を離れて暮らした「越前/福井」をアピールしています。3月には北陸新幹線

が開通し「越前たけふ駅」ができることも相まって越前市のブランドとして力を入れています。当館も入館者が倍増しています。なお、令和5年度は小学校3年生の「ふるさと学習」に紫式部が取り上げられ、当館へ子どもたちが見学に来てくださっています。この機会にみなさんにも紫式部が暮らした「越前/福井」に誇りを持っていただきたいです。



(「紫ゆかりの館」内の動画前で説明を聞く市内小学校3年生)

2 国府について

律令制度のもと、当時の日本は約68の国に分けられ^{たいこく}大国(13)、^{じょうこく}上国(35)、^{ちゅうこく}中国(11)、^{げこく}下国(9)と格付けされていました。その中で越前国は最上格の大国で、人口も多く、生産力が高く、京都からも近い熟国として、受領を希望する官人が多かったようです。

武生に国府がおかれていたことは『催馬楽』にある「道の口 武生の^{こよ}国府に 我はありと 親に申したべ心あひの風や さきむだちや」の歌謡や『和名類聚抄』の「越前国国府丹生郡に在り、行程上り七日 下り四日・・・」などの記載から明らかです。

しかし現在、国庁や国司の館、国分寺の場所がどこなのかが判明していません。

越前市では以前に発掘をし、須恵器に墨で「国寺」「国大寺」「大寺」と書かれた墨書土器や国府の役人が儀式で正装した際に身に着けたベルト(石帯)の帯飾り(石製巡方)も出土していますが、場所を特定できるものではありませんでした。昨年9月から紫式部プロジェクトの一環として発掘調査が始まり、本興寺の境内を掘り進めています。10月末現在、決定的なものはまだでていないようですが溝や井戸の址などは出てきているようです。

3 除目替えの話

藤原為時が越前守になった経緯が説話として残され

ています。為時は996年(長徳元年)の春の除目で下国(淡路守)の国司の任命を受け、落胆し漢詩(苦学寒夜、紅涙露襟、除目後朝、蒼天在眼『今昔物語集』)を一条天皇に献上し、天皇がこれを憐れんで左大臣藤原道長に命じ、大国である越前に任地替えをしたということです。そのため前任命者の源国盛は失意のため病気になる、秋に播磨守に任ぜられたのですが死亡したということです。

当時は有名な話だったようで『古事談』『続本朝往生伝』『今昔物語集・巻二十四』『今鏡』『十訓抄』などにも掲載されています。天皇が詩文を好んだためとか、一旦、決定した人事を強引に替えさせる道長の摂関政治のあらわれとかいわれていたようです。しかし実際は前年の995年9月24日に隣国の若狭に宋の商人朱仁聡が来着する事件が起こり、その後若狭や越前の敦賀(松原客館)に逗留している事から、その交渉相手として漢文の才を持つ為時が選ばれたというのが真実のようです。



「紫式部公園」に立つ式部の銅像(圓鋳勝三作)

4 藤原宣孝への贈答歌

武生で詠んだ歌として前掲の2首は有名ですが、求婚相手の宣孝に贈った歌もあります。実際に武生で詠んだのか、宣孝とはちがう男性に贈った歌なのではと諸説あるようですが、前掲2首の次に「紫式部集」には続けて載せられています。

「春なれど白嶺のみゆき いやつもり
解くべきほどの いつとなきかな」
「よもの海に 塩焼く海人の
心から やくとはかかる なげきをやつむ」
「くれなゐの 涙ぞいとど うとまるる
うつる心の 色に見ゆれば」

(前掲『紫式部日記 紫式部集』より)

男性から贈られてきた恋文への紫式部の返歌です。わたしの心は白山の雪のように解けないとか、他の女性に懸想していることを揶揄したとか、朱を涙の跡のようにおとして贈ってきた文に邪険にかえす歌などから、宣孝との関係が深まっていく様子が伺え、一年余りで京へ帰った理由がわかります。

5 源氏物語に表現される武生

源氏物語に描かれる鄙の様子や雪の描き方、歌(795

首)にも武生での暮らしが影響していると考えられます。

*蓬生の巻(15帖)

「蓬律の陰に深う積もりて、越の白山思ひやらるゝ」

*浮舟の巻(51帖)

「武生のこふに移ろひ給ふとも、忍びてはまゐり来なむを」

*手習いの巻(53帖)

みな、異物は声をやめつるを、これをのみめでた
ると思ひて、「たけふ、ちゝりちゝり、たりたんな。」

(『源氏物語』柳井滋他校注 岩波文庫より)

以上の三か所は物語の中の文章なので影響は明らかです。

また「紫式部集」にある宣孝が亡くなってから詠んだと思われる歌

「見し人の けぶりとなりし タベより

名ぞむつましき 塩釜の浦」

は前掲の宣孝への歌と同じ「塩釜」を詠ったものです。なお「源氏物語」の夕顔を偲んで光源氏が詠った

「見し人の 煙を雲と ながむれば

夕の空も むつましきかな」

に似ています。

なお、紫式部晩年の頃に詠んだ歌

「ふればかく うさのみまさる 世を知らで

荒れたる庭に 積る初雪」

(前掲『紫式部日記紫式部集』より)

は源氏物語「幻巻」(41帖)の光源氏の歌

「憂き世には ゆき消えなむと 思ひつつ

思ひのほかに なほぞ程ふる」

に影響を及ぼしていることが伺えます。

「煙」は「茶毘のけむり」、「ゆき」は「雪」「行き」「逝き」、「ふる」は「降る」「経る」を掛けています。

雪は武生では都とは比べ物にならないほど降り積もりうっとうしかったかもしれませんが、初雪の降る様、しんと降り積もる雪の夜、目覚めた時の雪景色、なかなか溶けない雪にまた雪が積もっていく様子は紫式部の心をとらえたのでしょうか。武生でのことを思い出しているような表現が多数あります。紫式部は意識していなかったかもしれませんが、武生での暮らしが心の奥深くきざまれていたのではないのでしょうか。

長い図書館勤務を終え当館の館長になったご縁で紫式部と武生のことを学ぶことができました。久しぶりに図書館で資料を探しました。知らなかったことを知ること何歳になっても喜びです。子どもたちも学ぶ楽しさを知ってほしいです。

【参考資料】

『源氏物語8・9』(柳井滋他校注 岩波文庫)

『紫式部集論』(山本淳子著 和泉書院)

『新・日本古典文学大系24』(佐竹昭広他編 岩波書店)

退職校長の言葉

出会い、つながり、感謝！～日本人学校の記録より～

福井市旭小学校長
塚本 康一

2013年春、マレーシアの日本人学校教頭として、3年間勤務する機会がありました。実は20代後半から日本人学校で勤務したいという強い希望を持っていたのですが、様々な事情でその夢が実現するまでに20年の月日がかかりました。そこで、教員人生の中でも特に心に残っている海外赴任のことについて、いくつか紹介したいと思います。

1つ目は危機管理。ブラックコブラが校内に出没し退治したこと、校舎に窃盗犯が入るなど日常的に治安が不安定であったこと、イスラム国の同時多発テロが隣国インドネシアで発生し、マレーシアでもテロ警戒レベルが最高度に引き上げられたこと、これらの危機的な状況による児童生徒、保護者、教職員の安全確保など、日本では考えられないような危機管理を行いました。

2つ目は多文化理解。マレーシアはマレー系・中華系・インド系の民族が在住する多民族国家であるため、各民族学校と定期的に交流し、国際理解教育を推進しました。各学校では中高一貫教育や能力主義クラスの実施、宗教を教育の中に位置付けていることなど、各民族の教育事情や文化、宗教等を肌で感じる事ができました。



3つ目は人とのつながり。日本全国から入学してくる児童生徒やその保護者、教職員、現地スタッフや日本人会、在マレーシア日本国大使館など様々な人々と出会いました。特によりよい人間関係づくりを築くために、率先して多種多様な人々との関わりに努めました。

海外赴任の3年間で、このように様々なことが心に残りました。また、日本を離れていたため、これまでの教職人生をじっくりと振り返ることもできました。20代は、授業研究や学級づくり、部活動に打ち込みました。30代は、研究主任や生徒指導主事など学校全体の役割を任されました。40代は、県社会科研究協議会研究主任など県や市の役割を担いました。50代は、管理職として学校経営に取り組みました。また行政職として、人事給与や教員研修、生涯学習など、県教委や市教委で様々な業務も遂行しました。日本人学校教頭職の仕事には、これまでの教職経験が大いに役立ちました。円滑に仕事を成し遂げられたのも、多くの人の支えのお陰であり、感謝の気持ちでいっぱいです。

日本人学校に赴任した2013年から今年で10年が経ちます。帰任後もこれまでの教職経験を生かすよう努めてきましたが、今後も「尊重」「誠実」「出会い」「つながり」、そして「感謝」の気持ちを大切に、少しでも人生を豊かなものにしていきたいと思っています。

コロナ禍だったからこそできたこと

福井市羽生小学校長
林 雅樹

私が校長になった4年前の4月は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業から始まりしました。そのとき私は、「こんな対策はすぐに終わって、元通りの学校生活が始まるだろう。」と思っていましたが、その後3年間、コロナとの戦いが続きました。そして、何人もの子どもたちをコロナにしてしまうはめになりました。

そんな私のコロナとの戦いの中で、一番厄介だったのは、福井市小学校連合体育大会でした。体育部長として、何とか連体を開催しようとしたのですが、コロナの再拡大と熱中症対策の難しさから、3年間実施できずにいました。そんな中、校長会からは「これを機に連体を廃止したらどうか。」とか、「ちがった形のものに変えてはどうか。」という意見まで出てくる始末で、「1学年2400人いる子どもらを熱中症にせず、スポーツを楽しませる機会をつくれってかあ、簡単に言ってくれるわ。」と思わずにはいられない感じでした。さらに、実働部隊である体育主任の思いを調査してみると、「以前のようにしっかり練習してやりたい。」という意見はほんのわずかで、「練習も当日もたいへんなので、やめた方がいい。」というものが大多数、「周りの先生方がたいへんだと言うので、やめた方がいい。」と答える連体運営経験なしの若い体育主任が何人もいて、驚いてしまいました。

これだけ負担にしか思われていない連体に代わるものを考え出すのは簡単ではありませんでした。子どもたちに満足感を味わわせる体験とはどんなものか、十分な熱中症対策はできるのか、午前・午後の学校の組み合わせとバスの運行はどうするのか、学校関係ではない外部の団体に協力は得られるのか、クリアしなければいけない課題がたくさんありました。

そして、体育研究部会行事推進部の先生方の協力を得ながら産みの苦しみに喘ぐこと数か月、何とかそれなりの形にして提案することができました。しかし、4部制実施にしたことにより任務にあたる人員が大きく不足してしまうなど、計画を進める中で出てくる新たな課題がいくつもあり、その対応にも追われました。そんな紆余曲折を経て、今年度、連体はスポーツフェスタとして生まれ変わり、第1回目を無事実施することができました。これも行事推進部をはじめとする体育主任の先生方の努力と校長先生方の理解・協力のお陰だととても感謝しています。また、スポーツフェスタが連体に比べて負担軽減となったのか甚だ疑問ではありますが、体験する子どもたちと審判をする校長先生方が共に笑顔であったという事実から、スポーツフェスタは連体より喜んでもらえる行事であったかなと自己満足し、胸をなでおろしています。本当にありがとうございました。

充実した教師人生に感謝を

福井市松本小学校長
向井 雅子

平成3年度、30代半ばの私は、5月の大型連休の最中、学校図書館ボランティアの組織を作るために頭をひねり、必死に募集文書を作成していました。勤務校が文部省(当時)から「図書館ボランティア活用実践」という新しい研究指定を受けることになったのです。司書教諭であり、図書主任であった私は、ボランティアを図書館運営、読書指導、利用指導のどんなことに活用できるか考え、読み聞かせ・環境整備・学習支援・広報・製作活動という5つの部会を立ち上げて募集することにしました。今思えば、最初からそんな大きな組織で活動可能と考えていたのかと、自分の無謀さに驚きます。しかし、ふたを開けてみれば、20数名の保護者が募集に応じてくださり、5つの部会全てに協力したいという熱心な方も数名いて、図書館ボランティアは、計画通り無事活動をスタートさせることができたのです。

この取組をきっかけに、私は、図書館ボランティアの保護者や地域の方々、公共図書館司書、おはなしの会など各団体の方、大学の先生、様々な方々と関わることになりました。新たなことに取り組むことはとても大変でしたが、成果が実感でき、図書館教育がまるで自分の専門分野ようになって、やりがいと楽しさを味わい、教師として充実した日々を送ることができました。

現在のように働き方改革の視点に立てば、私のやってきたことは、やり方としていかがなものかと言われるそうです。「多忙と充実」、バランスをとって進んでいくのは難しいことだと思いますが、私は、教師人生の中で図書館の仕事に出合えたことはとてもラッキーで、図書館の仕事に打ち込めたことは、幸せなことであつたと考えています。そして、それは、ボランティアに参加してくださった保護者や地域の方々の協力、管理職やまわりの先生の協力、家族の協力、多くの人たちが私の仕事を理解して後押ししてくださったおかげだと思います。

校長になって、小教研学校図書館部会長の仕事をさせていただきました。部会長として市や県の図書館関連の会議に出席する機会が多くあり、かつてお世話になった方々と顔を合わせる機会がありました。本当に懐かしく、こんな人とのつながりが図書館の仕事を通じてできたことをうれしく感じました。そして、会合で、今も変わらず、熱く、子どもたちの読書活動について語り、その推進の必要性を一生懸命考えていらっしゃる皆さんのお姿を見て、とても心強く、自分の関わってきた仕事に誇りを感じました。そんなふうに見える仕事との出会いやチャンスを、若い先生方には大切にしてほしいと思います。充実した教師人生が送れたことに、心から感謝したいです。

教員生活を振り返って

大野市有終西小学校長
古川 勝

「あんた誰?」「あなたのクラスの担任だよ。」私が教員になって初めて生徒と交わした会話です。あれから37年と7か月あまり…。無我夢中で駆け抜けてきました。現在は、一日一日を大切にすることを意識しながら、教職員と子どもたちのために校務に励んでいます。

振り返ってみると、学級担任としては、やっぱり子どもたちの喜ぶ顔がいちばんの思い出です。しかし、「あの時こうしてあげればよかった。」とか「あの時あんなこと言わなければよかった。」等、悔やまれることも思い出されます。授業では、合唱が心に残っています。うまく歌えなくて悩んでいる時の顔、みんなで協力して一生懸命に練習している時の顔、納得がいく合唱ができた時の満足そうな顔など、どれも忘れられません。また、生徒が歌詞を作り、私が作曲をする「学年の歌」もそれぞれの曲に思い出があり、連合音楽会や卒業式で歌って生徒が喜んでいたことは忘れられません。吹奏楽部では、演奏会、音楽会、式典演奏、訪問演奏等、依頼があればどこでも演奏しました。コンクールやコンテストでは、生徒が全力で練習に取り組む姿に共感し、自分自身も全力で指導しました。部活動は大変なことも多かったですが、子どもたちから多くの喜びや感動をもらいました。

ある日、「これまで好きなようにやってこられたのは、好きなようにさせてもらっていたのでは…?これからはさせてあげる側にならないと…」と思いました。悩みに悩んだ末、一大決心をして教頭になりました。最初は「転職したのでは?」と思うほど戸惑いましたが、周りの方々に助けていただきながら少しずつ仕事にも慣れ、「子どもにも教職員にも絡む管理職」を目標として頑張りました。子どもたちと一緒にいっぱい話をしていっぱい遊びました。教職員には自分からそばへ行って、話をしたり褒めたりアドバイスをしたりしました。多忙でしたが、不思議と気持ちは充実していました。校長になってからもそのスタイルは変えていませんが、「児童ひとりひとりの安全・安心と学習する権利の保障」「教職員を大事にする」という考えは教頭時代よりも強くなっています。現在は、自称全クラスの副担任として、毎日子どもたち一人一人の良いところを探しています。子どもたちの笑顔を見ているだけでとても幸せです。

上に書いたように、自分が思うがまま、好きなようにやってきた教員生活でしたが、たくさんの先生方、たくさんの子どもたち、保護者や地域の方々、関係機関の方々のおかげでここまでやっていくことができました。感謝しかありません。ありがとうございました。

最後に、校長先生方、健康第一でこれからもご活躍ください。ずっと応援しています。

感謝を込めて

あわら市金津小学校長
巻田 真由美

校長室にいますと、毎日子どもたちの明るい声が響いてきます。パズルをしながら友達と交わす、ほほえましい会話も聞こえます。時には「校長先生いいですか。」とにこにこしながら遊びに来てくれる子どもたちもいます。きらきらした瞳と笑顔に接するたび、子どもたちのWell-beingの実現のために今できることを考えます。一つの区切りの時が近づく今、時間の流れの速さに驚いている間もなく、やるべきことが次々と溢れてきます。

教職生活を振り返りますと、様々な思い出が浮かんでまいります。出会うことができた全ての素晴らしい子どもたち、温かくご指導いただいた先生方、学校の教育活動にご理解と惜しみないご協力をいただいた保護者の皆様、ご家族の皆様、地域の皆様、そして何より家族の応援のおかげで、38年間勤務を続けることができました。

時々、初任の頃の子どもたちとの距離の近さを懐かしく感じます。一緒に泣いたり笑ったりしながら試行錯誤の連続でしたが、その時いただいた校長先生の温かい言葉や先輩の先生方からのアドバイスは今も心に残っています。年数を重ね、県小教研の発表や公開授業、県外での研修講師等を経験させていただきました。子育ての時期と重なり多忙を極めましたが充実した日々でした。

特に管理職となってからは、保護者、地域の方々との連携の大切さを実感しました。学校行事や周年行事、ふるさと学習など学校だけでは実現や解決が難しいことを「学校のためなら」と快く助けていただきました。子どもたちの喜ぶ笑顔とともに、地域の中の学校という絆の深さや歴史を感じ、感動したことを覚えています。

コロナ禍が過ぎても、予測不能な日々は続いています。教育現場はさらに変化を求められることでしょう。ただ、子どもたちは宝であり、一日仲間と学びを楽しむ元気に帰ること、一人一人の学びを保証することの大切さに変わりはありません。様々な個性をもち若芽のように伸びる子どもたちの幸せのため、教職員は頑張っています。

ここ数年、以前担任をしていた子どもたちが教育実習生として訪れてくれることが多くなりました。立派に成長した姿に感動するとともに、これから教職の道を進む彼らが「教師になって良かった」と日々充実感をもち働くことができる職場でありたいと痛切に感じます。日夜奮闘している先生方がやりがいを感じ、笑顔で子どもたちと学び合える環境づくりを行うため最前線にいるのが管理職です。バトンをより良い形で送ることができるよう、微力ですがさらに努力してまいります。

最後に、これまでお世話になった全ての皆様に心から感謝申し上げます。皆様方のご健康と益々のご活躍をお祈りいたします。

39年間の教員生活をふり返って

鯖江市河和田小学校長
澤田 博孝

私は昨年度末で定年退職となりましたが、再任用校長として今年度も引き続き私の母校である河和田小学校に勤務しています。昨年4月に初めて母校に赴任し、新任式で50年ぶりに校歌を聞きました。子どもたちの元気な歌声を聞きながら、校歌の歌詞が自然と私の口から出てくるのには自分でも驚きました。母校の良さを改めて感じた瞬間でした。母校で教員生活を終えることができる幸せをかみしめながら、校長として残された日々を精一杯勤めたいと思っています。

私は昭和60年に敦賀市の角鹿中学校に新採用となり、英語科教員として4年間勤務しました。その当時は、トイレも風呂も共同だった男子教職員寮で、たくさんの先生方と一緒に生活を送りました。もちろん携帯電話もまだなかった時代ですから、不便なことも多かったはずですが、それでも何とか工夫して生活していました。その頃の生活や出来事を思い返すと、今では考えられないような思い出が数多くあります。

その後、鯖江市に戻ってから管理職となるまで、市内の三中学校で20数年勤めました。初めの頃に英語の授業で使っていたのは、今ではほとんど見かけなくなったカセットテープレコーダーです。早送りや巻き戻しを繰り返しているうちに、テープが機械の中で巻き付いてしまうこともよくありました。その後CDプレーヤーに替わり、操作もずいぶん簡単になりました。そして、平成の後半になると、デジタル教科書が採用されました。いろいろな機能が使えるようになり、授業の進め方もずいぶん変わりました。今では、各教室に大型テレビが整備され、児童一人一台ずつタブレットが与えられるなど、ICT機器の活用はまだまだ進みそうです。

また、小学校での英語教育もどんどん進み、3年前から高学年では英語が教科化されました。私が採用された当時は、ALTの先生が中学校を訪問するのは、一学期に1回程度でした。ですから、授業でALTとティームティーチングを進めるというよりも、ALTはたまに学校を訪問するお客様扱いでした。英語の教員免許は取ったものの、大学生当時には英会話の経験がほとんどなかった私にとって、自分の英語がALTに通じると、生徒よりも私の方がうれしかったことを今でも覚えています。今ではALTの先生が学校へ来ても、子どもたちは物怖じせずに自分からあいさつをしたり、話しかけたりしています。英語教育に長く携わってきた私としては、その姿を見るたびに感慨深くなります。

最後になりますが、これまでお世話になったすべての方々に心からお礼申し上げます。そして、福井県小学校長会の今後益々のご発展をお祈りしています。

私を支えてくれたもの

越前市岡本小学校長
多田 昌弘

退職を迎えるにあたり、教員人生を振り返ってみると、多くの子どもたちの笑顔が思い浮かんできます。私が教員となったのは嶺南の中学校でした。1学年2クラスで、1年担任を任されました。隣のクラスの担任も初任者でした。何をすればいいのか、どこから手をつけていけばいいのか、分からないことだらけでした。そこで、ベテラン先輩にアドバイスを求めました。返ってきた答えは「まずは子どもたちをしっかりと見る」という言葉でした。「子どもを見る」ために何をすれば良いかを考える力は、その時の私にはありませんでした。そこで、とりあえず授業はもちろんのこと、休み時間、部活動、下校時など、とにかく生徒の様子を見るために生徒の近くへ行くようにしました。すると、生徒たちは「先生!」といって駆け寄ってきました。初任者にとって、生徒との会話はとても楽しく、教師になった喜びを感じました。

4年後、地元である武生市(現越前市)の小学校に帰ってきました。ここでも「子どもたちをしっかりと見る」ことを続けました。そして、分からなかったことが分かったり、出来なかったことが出来るようになったりしたときの子どもたちの表情が大好きになりました。子どもたちの笑顔を求め、「楽しく分かる授業」「笑顔あふれるクラス」が目標となり、追い求めてきました。

そして今、天気の良い日の大休みや昼休みに、児童玄関前の階段に腰を下ろし、校庭で遊ぶ子どもたちを眺めています。一緒に遊ぶだけの体力は、残念ながらもうありません。眺めているだけで、様々な子どもたちが声をかけてきます。にらめっこをしようと話しかけてくる子、肩もみをしてくれる子、草むらで見つけたバッタを見せに来てくれる子。どの子も笑顔です。

冒頭にも書きましたが、多くの子どもたちの笑顔が思い浮かぶことに、大きな幸せを感じています。「子どもたちをしっかりと見る」ことで、多くの「笑顔」に出会いました。難しい課題に直面したことも当然ありました。そんな時も、子どもたちの笑顔に支えられ、元気をもらい、先輩の先生方から多くのことを教えていただき、どうにか乗り越えてきました。素晴らしい先輩方、笑顔の子どもたちには、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、退職が近づき思うことがあります。それは、私は先輩方のように次へとつながられたか、管理職として職員もしっかり見ることができたか、ということです。力足らずで上手いかなかったことも多く思い出されます。残りわずかですが、これまでの反省を踏まえ、校長として、最年長の教職員として、「子どもたちの笑顔」のために取り組む姿を見せていきたいです。

様々な出会いに感謝

敦賀市立中央小学校長
山本 杉子

長い教員生活を振り返れば、様々な出会いがあって、今の私があります。

20代。新採用教員としてのスタートは、3年生3名、4年生2名の複式学級の担任でした。国算社理の4教科2学年分の指導書を持ち帰る度、「サンタクロースのようだね。」と先輩教員に言われたのを覚えています。その頃は、新採用が敦賀市で約50名おり、若い教員との出会いがたくさんありました。夜遅くまで授業の準備をしたことも多々あり、苦楽を共にし励み合った仲間とは、今でも交流が続いています。

30代。担任として1～6年全ての学年を担当させていただき、学年主任の経験も重ねました。教育相談研修では、他の市町の先生方と共に福井大学大学院に通い、新しいことを学ぶ楽しさを実感しました。韓国交流使節団児童引率等もあり、見聞を広げることができました。

40代。念願叶い、2008年から3年間、北京日本人学校へ赴任。全国の先生方との交流の中で、福井の先生方の素晴らしさを再認識しました。中国の人達との交流、様々な国の先生方との交流を通して、視野がぐんと広がりました。北京オリンピック・パラリンピックにも子ども達と参加し、感動の体験でした。

小学校の担任一筋だった約30年。何より子ども達との授業が大好きでした。何の力も無い自分でしたが、目の前のことに全力で取り組んでいく中で、少しずつでも成長していったのかなと感じています。

50代。思いがけなく管理職の道へ。自分には無理だとずっと固辞していましたが、勤務校の校長先生の後押しがあっての大挑戦でした。教頭時代は、脳が休まることがないほど多忙でしたが、新しい世界を知り、やりがいを感じた3年間でした。校長1校目の敦賀北小学校では、最後の校長として149年の歴史を締めくくりました。温かい地域の皆様や子ども達、先生方と、知恵を出し合い考えた数々の企画。閉校式の日、全員で空に飛ばした色とりどりのバルーンは今でも鮮やかに思い出されます。2校目の中央小学校は、まさにコロナ禍。修学旅行に向けてバスに乗り込もうとしたときに「陽性1名」の報告。そして、休校。しかし、主体的に動く先生方のチームワークの素晴らしさに感動し、保護者の信頼を得、ピンチはチャンスだと確信した出来事でした。

そして今、5年間の校長職を終えようとしています。校長室の入口に、学校探検をする1年生のために2年生が作った看板が飾ってあります。そこには、「校長先生はみんなをまもる人です」と書いてあります。その言葉の重みを噛みしめながら、最後の一日まで責任を全うしてまいります。今まで、どうもありがとうございました。

校 長 講 話

聞くことの大切さ

永平寺町志比南小学校長
竹林 保博

最近、地震が多いですね。震度5から6クラスの地震があちこちで発生しています。震度7が地震の中で一番大きな揺れを表しますから、5や6は、それに近い揺れを感じているということです。震度6を観測したお隣の石川県では、建物が潰れるなど、大きな被害が出ています。実は福井県でも、今から75年前、震度6の地震がありました。その被害はとても大きく、それまでは、震度6が最大だといわれていた地震の強さに震度7が加わったという大災害でした。75歳以上のおじいちゃんやおばあちゃんがいる人は、その時の様子を聞いてみるとよいでしょう。

さて、先日の石川県の地震では、テレビ放送で「緊急地震速報です」「大きな揺れにご注意ください」とのアナウンスが何度も流れました。聞いていて不安になりましたね。学校では、不安に襲われることなく落ち着いて行動できるよう、避難訓練をしています。しかし、地震はいつどこで起こるかわかりません。もし地震が起きた時、落ち着いて行動するために大事なことは、しっかりと地震の情報を聞くということです。情報を聞かないで勝手に行動すると、周りに迷惑をかけたり、危険な目にあったりと、被害の拡大にもつながりかねません。

そこで、普段から情報を意識するための訓練を紹介します。それは、「校内放送を最後まで聞く」という訓練です。学校では、全校の皆さんに何か伝えたいことがある時に、校内放送を使って連絡します。この時に、誰に伝えたいのか、何を伝えたいのか、など考えながら最後まで放送を聞くようにします。時には自分には関係ないという放送もあるかもしれませんが、それでも伝えたい人に伝えたいことがきちんと伝わるように、周りの皆さんも口を閉じて、放送を聞くことが大事です。もちろん、遊んでいても、遊びを止めて、放送を聞くようにします。みんなが動きを止めて聞くことで、遊びに夢中になっている人にも、「何かあったんだな」ということを行動で知らせることができます。ただ、学校の全ての放送でこのようなことをする必要はありません。朝の校内放送などは、着替えながら聞くこともあるでしょう。どんな放送には特に気をつけるとよいのか、今月の避難訓練を前に、担当の先生や担任の先生からお話があります。

最後に、大事なことを聞き漏らさずに、お話をしっかりと聞く聞き方を「さいふ耳」といいます。皆さんは、自分のお金は財布に入れて大事に持っていると思います。そして、お金が必要になった時に、財布から出して使いますね。これと同じように、大事なお話は頭の中に一度入れておき、必要になった時に、入れておいたお話を思い出して使える子になりましょう。

なぜなぜクイズ 自分も私も心地よく

池田町立池田小学校長
飯田 清徳

皆さんに問題を出します。よく考えましょう。答えが分かってもし声に出さないようにしましょう。

1問目の問題です。道路上にある信号機です。池田町にも2基あります。色の順番が分かりますか。この3つの中に正解があります。これだというものに手を挙げましょう。(問)正解は3です。色の順番の理由が分かりますか。理由を言います。交通事故を防ぐためには自動車が止まることが大事です。だから、運転手から一番見やすく速く止まることができる赤色が、一番上にあります。信号機のランプが横並びのものは、見やすいように一番右にあります。見やすいということが大切です。

第2問です。身の回りの物の形にはいろいろありますが、道路にあるマンホールの蓋は円形(円い)です。なぜだか分かりますか。(問)実は算数が大きく関係しています。一実演—このように四角いと落ちるけれど、円形の物は落ちません。重い鉄の蓋が落ちると危ないですね。他にも理由があるかもしれないので考えてみましょう。

第3問です。これが何かは分かりますね。そう、椅子です。なぜ、椅子の脚が4本あるのでしょうか。その理由は人が座った時に、体の重みを4本の脚で支えて、横に倒れることがないようにするためです。人間の足は2本です。もし1本の足で立っているとどうでしょう。立っている1本の足が辛くなってきますね。4本脚の椅子を2本の脚で使うとどうなるでしょう。倒れるかもしれないし、椅子は声が出ませんが、辛いと感じているかもしれません。さらには、椅子の脚がこわれてしまうかもしれません。理由が分かったところで、安定して使うためにも、床に4本の脚をつけて座ることにしましょう。

このように、生活の中で当たり前だと思って、見過ごしていることにも、きちんとした理由があります。品物以外にも理由があるものがほとんどです。

スポーツ競技のルールは、プレイヤーが安全に楽しくプレーするためにあります。交通ルールは、事故が起きず、安全に道路を行き来するために必要です。ルールやマナーは、人が安全に気持ちよく生活するためにあります。

学校生活の中でも、ルールやマナーがありますね。例えば、「廊下は走らない」「食事の時には大きな声を出さない」「授業中に勝手に話さない」などです。どれも、自分も他の人も心地よい生活を送るためですね。これからも生活や学校が楽しく感じられるよう心掛けていきましょう。

一人一人に 大切なもの 大切なこと

美浜町立美浜西小学校長

前田 由美子

突然ですが、みなさんは周りの人から普段どのように呼ばれていますか。場所や相手によって変わるかもしれませんが、どのように呼ばれるとうれしいですか。また、あなたは、周りの人たちのことをどのように呼んでいますか。学校だと、友達や先生、支援員さん、事務員さん、用務員さんなど。そして、その呼び方を、相手はどのように感じていると思いますか。

友達のことを、ニックネームで呼んでいる人も中にはいると思います。この学校では、『～さん』と呼びましょう」という決まりはありません。けれど、全国にある他の学校を見ると、あだ名は絶対禁止で、男女関係なく名前に『さん』を付けるように決められている学校もたくさんあります。それはなぜでしょうね。

今日は、相手の呼び方や名前について考えてみたいと思います。1年生では、名前について「自分の名前ってどんな願いを込めてつけられたのだろう」ということを、おうちの方と考える授業もしましたね。そこで学んだように、ここにいる一人一人が、おうちの方が一所懸命考え授けられた大切な名前をもっています。ですから、その名前を、まず自分自身が大切に思っしてほしいと思います。

また、周りの人も、その名前が、大切に与えられた名前だということを理解した上で、その人のことを呼んでほしいと思います。ニックネームや愛称がだめだとは必ずしも言えません。なぜなら、その呼び方が、親しみを感じる人もいると思うからです。けれど忘れてはいけないのは、そのあだ名やニックネーム・愛称を呼ばれたその人やおうちの方が、どう思っているかが大事です。いくら呼びやすいニックネーム・愛称だからと言って、実は相手がうれしく思っていないかもしれません。そして、そのことを言えずにいる人がいるかもしれません。

ここで大切なのは、相手の気持ちや考えに思いを馳せられるか、相手の立場に立って、表現できるかということです。先ほど紹介した相手の名前に『さん』を付ける呼び方も、相手のことを大切にすることの形なのでしょうね。

また、もう一つ大切なことは、その場が、愛称やニックネームで呼ぶのがふさわしい場かどうかとも考えられるようになってほしいということです。社会に出たときに、自分の言動がその場に合っているかどうか、判断できる大人であってほしいと思っています。

これらは、私の今の考えです。また、みなさんの考えも聞かせてくれるとうれしいです。

こころのはなし

おい町立名田庄小学校長

早川 勇治

「こんな名田庄小学校に②」は、「こころのはなし」をします。

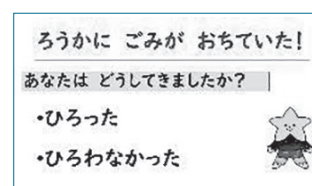
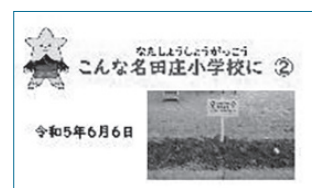
(野球選手がグラウンドを手でならしている写真を見せて)これは、何をしているところでしょうか。どうして、こんなことをするのでしょうか。(次に、バレーボールの選手がモップで床を拭いている写真を見せて)では、この選手は何をしているところでしょうか。どうして、こんなことをするのでしょうか。(児童のつぶやきの後)みなさんが答えてくれたとおり、ボールがイレギュラーしたり、汗で床が滑ったりすると、自分が困るからしているのですよね。

先週は、親子ピカピカ大作戦(親子奉仕作業)やたてわり草取りで、グラウンドのイシクラゲや草をたくさんとってくれてありがとう。いよいよ、今週末がたてわりまつり(運動会)です。自分のためにがんばりましょう。そのためには、いつもお願いしている「思いやり」「挑戦」「考える」の3つのことを忘れないでくださいね。

ところで、これは何の写真でしょうか。(廊下の写真をだんだんズームしていったごみを写す。)そうです。これは、廊下にごみが落ちていた写真です。ここで質問です。廊下にごみが落ちていたら、あなたはどうした方がいいと思いますか。①拾った方がいい、②拾わない方がいい。では、廊下にごみが落ちていたら、あなたはどうしますか。①拾う、②拾わない。最後に、廊下にごみが落ちていたら、あなたはどのようにしてきましたか。①拾った、②拾わなかった。みなさんも思ったかもしれませんが、ごみは拾った方がいいと頭では分かっているのですが、なかなか拾えないものですよね。

アメリカ大リーグで活躍しているブルージェイズの菊池雄星選手は、ごみが落ちているのを見つけたら、「神様がぼくを試している」と思うそうです。自分は、ごみを拾うことができる人なのか、ごみを拾うことができない人なのか、神様が試しているということだそうです。

どうでしょう。みなさんも、これから、ごみが落ちているのを見つけたら「神様に試されている」と試してみませんか。そして、「今から ここから 自分から」ごみを拾える人になってほしいなあと思います。みんなであふれる素敵な名田庄小学校にしていきたいと思います。



令和5年度 専門委員会活動報告

人事行財政対策委員会

本委員会では、学校教育・学校経営の課題解決に向け、小・中学校が一体となって教育諸条件の整備充実のため、学校現場と行政側が意思の疎通を図ることを目的として、「県教育長と語る会」を実施した。実施に当たっては、県教委に対する各地区校長会からの意見・要望等を集約し、懇談の話題のテーマとした。

■県教育長と語る会 8/22(火)

県教委から豊北教育長をはじめ8名、県小中学校長会から11名が参加し、現在、福井県教育委員会で次期教育振興基本計画についての議論が始まっているということもあり、「これからの小中学校教育で目指していきたいこと」「教職員の働き方」「60歳以上の教職員の働き方」の3つの議題で協議を行った。

- (1) これからの小中学校教育で目指していきたいこと
 - これからどのような児童生徒を育てていきたいか
 - ・「主体性」等、前向きな心情を育み実践力をもった児童生徒
 - ・「レジリエンス」等、心のたくましさを育て未来を生きる力をもった児童生徒
 - ・ふるさとに誇りをもち地域社会に貢献していく児童生徒
 - これからどのような学校を作っていきたいか
 - ・安心安全で子どもたちが笑顔で過ごすことができる学校
 - ・子どもたちが自分の良さに気づき、互いの良さや多様性を認め合うことができる学校
 - ・子どもたちが主体的、対話的、探究的に学ぶことができる学校
- (2) 教職員の働き方について（教職員がゆとりを持って働くために）
 - 教育委員会主導の研修や報告文書の再見直し
 - 中教審の「質の高い教師の確保」特別部会が取り組んでいる改善策の県民への周知
 - 人材確保のための取組
 - 部活動の負担軽減
 - 国に対して、授業時数の削減を踏まえた教育課程の見直しなどの要望
- (3) 60歳以上の教職員の働き方について
 - 情報の提供を
 - 管理職での経験の生きる職種の新設を

校長会の提案をもとに活発に意見交換をすることができた。教育長からも、現場の声を吸い上げ施策に生かすという考えを聞くことができた。

(文責：福井市円山小学校長 野村 淳一)

調査研究委員会

調査研究委員会では、『子どもたちの「夢と希望」「ふくい愛」を育む教育を推進するための校長の役割Ⅱ』をテーマに、今日的な学校教育の課題、学校運営上の諸問題や社会の変化に即応した学校の取組について、調査研究を行った。

- 1 調査対象 全小学校185校
[国立1校・市町立184校]
- 2 調査期間 令和5年6月1日～6月30日
- 3 調査項目 全連小調査項目の抜粋と会員からの要望
- 4 調査内容 報告書を参照（県小学校長会HPに掲載）
調査の結果、新学習指導要領の完全実施から4年目を迎えたが、依然として「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」が教育の最重要課題としてあげられており、各学校では、GIGAスクール環境なども用いながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」をどのように実現したらよいか試行錯誤していることが伺える。特に、タブレット端末の活用については、教員のICTスキルの向上が不可欠であり、少しずつ改善は図られてはいるが、一方で、授業での有効活用が大きな課題となっており、活用事例や課題解決策の共有など、さらなる研究や経験を必要としている。

また、新型コロナウイルス感染症の法的位置づけが5類に引き下げられたことで、各学校では様々な活動が再開されるようになってきた。それらは、単にコロナ前に戻すだけでなく、新たな価値観や社会の変化に応じた新しい令和型の教育活動の展開が求められており、現在、大きな転換期にある。そうした中、学校の働き方改革はやや手詰まり感が漂っており、さらなる教職員の意識改革が必要であり、学校のDX化の推進も今後の大きな課題となっている。

さらに、新たな教育課題として、「特別支援・インクルーシブ教育の構築」の割合が年々増加してきている。背景として、通常学級に在籍する特別な支援が必要な児童が年々増加傾向にあることが考えられる。通級や支援員、SCやSSW、関係機関や医療機関との連携など、人的配置を充実させるとともに、タブレット端末の効果的な活用や備品配備など、物的な環境整備を継続的に行っていくことが大切である。

その他、本調査報告書では、いじめや不登校の予防・支援、ふるさと教育の推進など、学校運営上の課題について分析・考察しており、各校長の現状認識が一層深まり、各学校運営の改善の一助になればと思う。

最後に、アンケートに協力いただいた県下小学校長をはじめ、調査研究委員の皆様、心より感謝申し上げます。

(文責：福井市文殊小学校長 川崎 隆夫)

教育研究委員会

1 活動の報告

第75福井県小学校長教育研究奥越大会に向けて、研究副主題を「夢と希望の実現に向けて主体的・協働的に学び 未来を生き抜く力を育成する学校経営」と設定し、校長の役割や指導等の在り方について実践的な研究を推進した。昨年度の引き続き、参集型の研究大会を開催することができ、意見や感想を直接交換できる貴重な機会となった。

2 主な活動内容

(1) 第1回教育研究専門委員会

期日：4月19日(水) 会場：ユー・アイふくい

○役員選出、年間活動方針、年間行事計画について

○令和5年度・6年度各研究大会について

○県小学校長教育研究奥越大会の概要について

(2) 第2回教育研究専門委員会

期日：6月13日(火) 会場：勝山市教育会館

○県小学校長教育研究奥越大会の打合わせ

全体会、分科会の日程と当日の協力体制確認

全体会会場、分科会会場等の下見

(3) 第75回福井県小学校長教育研究奥越大会

期日：8月24日(木)

会場：勝山市民会館、勝山教育会館

【分科会発表者】

- | | | |
|---------|----------|---------|
| ①学校経営 | 坂井市東十郷小 | 岡崎 良子校長 |
| ②知性・創造性 | 永平寺町御陵小 | 田邊 尚紀校長 |
| ③人間性・健康 | 若狭町立瓜生小 | 城谷 俊臣校長 |
| | 若狭町立熊川小 | 加藤 勝代校長 |
| ④人材育成 | 大野市有終東小 | 竹内 由美校長 |
| ⑤危機管理 | 越前市味真野小 | 松谷 昭子校長 |
| ⑥社会形成能力 | 越前町立糸生小 | 安井 秀明校長 |
| ⑦自立と共生 | 敦賀市立栗野南小 | 竹中 由紀校長 |
| ⑧連携・協働 | 福井市岡保小 | 松宮 龍栄校長 |

(4) 第58回東海・北陸地区連合小学校長会

教育研究岐阜大会

期日：10月26日(木) 27日(金)

【分科会発表者】

第10分科会 福井市岡保小 松宮 龍栄校長

(5) 第3回教育研究専門委員会

期日：1月11日(木) 会場：県教育センター

○第76回県小学校長教育研究二州大会について

○第59回東陸愛知大会、第76回全連小徳島大会について

○令和6年度各研究大会について

(文責：勝山市立北郷小学校長 奥村 純子)

編集広報委員会

1 活動の報告

「会報」を編集・発行し、県小学校長会及び各専門委員会の活動内容、令和5年度の県小学校長会の主な歩みを全会員に知らせた。また、各界の先輩諸氏の提言を受けて、校長としての指導力向上や今日的課題の把握に資するとともに、会員相互の意見交換の場を提供する情報連絡誌としての役割を果たした。

また、全連小とのつながりから、「小学校時報」および「教育研究シリーズ」「教育研究便覧」の執筆にかかる調整や原稿依頼、執筆等を行った。全連小ホームページ特色あるR5年度学校掲載校の確認、次年度からの掲載校の調整・決定を行った。

2 活動内容

(1) 「会報」の編集・発行(A4判、年2回発行)

①第117号の主な内容

巻頭言、県小学校長学校運営研究大会若狭大会講演、県小学校長会の活動方針、各専門委員会活動計画、校長講話、新任校長の抱負

②第118号の主な内容

巻頭言、校長に望む(県教育長)、時流潮流、退職校長の言葉、各専門委員会活動報告他

(2) 編集広報委員会

○第1回編集広報委員会 4/19 ユーアイふくい

○第1回編集企画会議 8/1 福井市順化小学校

○第2回編集広報委員会 12/20 オンライン

○第2回編集企画会議 12/20 オンライン

○第3回編集広報委員会 1/23 オンライン

(3) 全連小広報担当者連絡協議会 6/30 東京

(4) 全連小「小学校時報」等の原稿依頼、編集等

○「小学校時報」掲載

・6月号 小浜市小浜美郷小 田中 悟 校長

・8月号 東京オリンピックホッケー日本代表
三谷 元騎 氏

・10月号 敦賀市立栗野小 橋本ユミ子 校長

・12月号 福井市木田小 氣谷 達郎 校長

・2月号 大安禅寺 高橋 玄峰 副住職

○「教育研究シリーズ」

・大野市小山小 廣瀬 智之 校長

○全連小ホームページ

「特色ある学校紹介」R6年度～掲載校

麻生津小、村岡小、明章小、惜陰小、南条小、松原小、大島小

○全連小「特色ある研究校便覧」R6年度掲載校

中藤小、平泉寺小、立待小、小浜小

(5) 県小学校長会HP更新(6月、12月、2月)

(6) 依頼原稿の調整・編集(随時)

(文責：福井市麻生津小学校長 斎藤 弘子)

編集後記

「会報」118号発行に当たり、紫式部と国府資料館・紫ゆかりの館館長 三田村悦子様には、お忙しい中玉稿を賜りました。関係の皆様、会員の皆様からも経験に基づいた貴重な原稿をお寄せいただき、今号も充実した内容となりましたこと、心より厚くお礼申し上げます。「会報」やホームページが、学校運営の充実の一助となりましたら幸いです。

